

図書館協議会委員ご意見まとめ

【三鷹市立図書館の基本的運営方針】について

p. 3 第2章第1	数値目標に関する点検・評価の表について。予約点数には電子書籍サービスは含まれるのでしょうか。注書きが必要なように思われました。
	→ 表記を一部変更し、分かりやすくします。
p. 4 第2章第2	三鷹市立図書館の課題 「図書館の潜在利用者」のくだり、そもそも市民の内の利用者の割合が低いことが最大の課題なので、この「潜在利用者」の割合の大きさを具体的な数値で示せないものなのでしょうか？
	→ 潜在利用者について、パーセンテージで表記しようと思います。
p. 4 第2章第2	上から3行目、図書館の潜在利用者について言及があります。アンケートは、潜在利用者のみならず、図書館を利用しているアンケートに回答していない人もおり、そういう人たちの意見は反映されていません。図書館利用者でアンケート未回答者からのアンケート回収率を高める方法に言及してもよいのではと感じました。
	→ 第3章の事業の点検・評価の部分に加える形にします。
p. 4 第2章第3	第5次三鷹市基本計画 利用者増のために、①居心地の良い施設②サービス向上③情報発信、は分かるのですが、サービス向上の具体例を一つでも盛り込んだ方が分かりやすい。第3章第2の4つの柱の係る事業のところに具体例はありますが、目新しさはありません。企画展や展示他に潜在利用者にアピールできる生涯学習的講座を実施するなど新たな取り組みも視野に入れては？
	→ 第5次基本計画で示している概要をまとめた形となっておりますので、現行のままとします。
p. 4 第2章第3	第3の第5次三鷹市基本計画の見出しについて、関連する事柄ということで、分かりやすく追加表記をしておいた方がどうか。
	→ 第5次三鷹市基本計画（三鷹市立図書館関連）とします。
p. 6 第3章第1	3「4つの柱」（4）市民の期待に応える図書館の囲み「様々な知識に通じた人財を確保し」の人財と確保の内容が…講師ってことですか？知識のある職員を採用するってことですか？そのあとの説明文だと職員の教育ってことなのかしら？図書館協議会で提案のあった「イベントや講座などを企画する専門の職員を置く」というのは今のところ、難しいのでしょうか
	→ 外部の人財でなく、職員を研修等で質の向上を目指しています。
p. 8	体系図について。4つの柱→基本理念→めざす図書館像の順序で示されています。

	基本理念を実現するために 4 つの柱を掲げ、それらを事業として実施し理想とする図書館像の実現を目指すという順序になるのではないのでしょうか。つまり、基本理念→4 つの柱→めざす図書館像の順序になるのではないかと思います。 p. 6 では、2 基本理念、3 4 つの柱の順序に説明がなされています。しかし、体系図では逆転しています。なぜでしょうか。
	→ 基本理念、4 つの柱、めざす図書館像の並びに変更します。
p. 11 第 3 章第 2	3 (1) 図書館サポーター、ボランティアの育成・支援 3 (2) 市民団体等との連携・支援の文中に図書館サポーターの養成とボランティアの育成と在り、養成と育成が使われています。図書館サポーターもボランティアも育成なのか、養成と育成に分けているのか気になりました。
	→ 養成と育成について用語を統一します。
p. 11 第 3 章第 2	図書館サポーターの設立という表現がありますが、正しいのでしょうか。サポーターの組織を設立するのか、サポーターの仕組みならば制度仕組みを検討する、図書館が事務局としサポーターの人集めであるなら募集を検討すると何を目的とするかによって表現方法が異なっていくと思います。
	→ 駅前図書館にもサポーターの活動を考えているので、図書館サポーターの導入と変更します。
p. 11 第 3 章第 2	3 (2)、視覚に障がいのある方に対するサービス とあります。聴覚など他の障がいのある方へのサービスには言及しなくてよいのでしょうか。
	→ ボランティア活動の中で、視覚障がいのある方にのみ支援をしているところです。
p. 11 第 3 章第 2	4 上から 2 行目。継承するとともに、・・・整備するとともに、・・・ ともに が重なるので表現を工夫してください。
	→ 整理して修正します。
p. 11 第 3 章第 2	4 (1) レファレンスの講習とあります。誰が行うのでしょうか。実施主体を記した方がよいと感じます。
	→ 職場内研修や外部講師を招いて行う講習もあります。この部分の表記につきましては、分かりやすいように削除します。
p. 11 第 3 章第 2	4 (3)と p. 12 第 3 で、事業の点検・評価に言及しています。両者は同じことを指していますか。両者の違いと関係性がよくわかりませんでした。
	→ 前段の事業の点検・評価については、事業として点検・評価の目的を示しており、後段は点検・評価での数値目標等考え方や方法について示しておりますので、第 3 の「点検・評価」の見出しを第 3 「指標による点検・評価」と変更します。

p. 11	図書館サポーターの注記。出典があれば明記してください。できれば、図書館情報学関係の辞典等をもとに記した方がよいです。
	→ 三鷹市立三鷹図書館サポーター規約を基に記しています。
p. 12 第3章第2	上から4行目。三鷹市立図書館協議会の意見を聴取した上で……。聴取した意見の扱いに言及しなくてよいのでしょうか。
	→ ご意見を反映した形に変更するのはでなく、評価を受けその結果を公表する形となります。
全体	随所に「きめ細かい情報発信」という表現が出てきます。具体的な手段等に言及してはどうでしょうか。
	→ 具体例を表記するようにします。
全体	文書の中に参考資料とか地域資料とかの何種類かの資料が出て来ますが、どの様な物なのか分かりません。
	→ 注記を追加します。
全体	表題についてですが三鷹市図書館の基本的運営方針は目標とするものの数値化されていることや図書館の方向性などがわかりやすく良いと思いました。

【みたか子ども読書プラン 2027】について

p. 3 第 1 章第 1	3 つの指標の数値について。2022 年度の達成状況を踏まえて設定したものであると思いますが、目標値が妥当か否かをどのように判断するのでしょうか。目標値の設定プロセスを注記などで説明した方がよいと感じます。
	→ 根拠を注記でお示しします。
p. 5 第 1 章第 2	最後の段落。指標 3 は達成できなかったためか、具体的な数値が示されていません。他の指標と同様に数値を示した方がよいと感じます。
	→ 追加します。
p. 7 第 2 章第 1	1 (2)、「ユニバーサル図書」とあります。注記では、「ユニバーサルデザイン図書」となっています。齟齬が生じていますので、確認してください。
	→ ユニバーサルデザイン図書に統一します。
p. 8 第 2 章第 1	2 学校図書館への支援 子どもが本を手にするしくみの一つとして、子どもの近くに沢山の本を置くことを目指して各校のボランティアが学級文庫として団体図書を借り出しています。この取組の継続が難しくなってきたので、図書館が配送の仕組みを作ってくれました。この取り組みは、地域家庭が関わっていく「協働の活動」を支える取組としてもとても評価できるので、ここの章か第 2 章第 2 2 地域・家庭における読書活動 のどちらかに記載してはいかがでしょうか？
	→ 4 市内施設、団体向けサービスの充実の（1）子ども向け施設への団体貸出の項目に追加します。
p. 10 第 2 章第 1	星森との連携 「三鷹みたか・子どもと絵本ボランティアプロジェクト連絡会との連携も検討します」とありますが、すでに連携している部分もあると認識しています。「・・・と連携をより進めます」ではどうでしょうか。
	→ 修正します。
p. 11 第 2 章第 1	6 居場所としての図書館 ティーンズに対しての施策が現状やっていることを周知していくことしか書いてありませんが、それでは利用は増えないかと思います。「まなびの場事業」の発展形の検討はないのでしょうか？居場所に限らず多様な視点の読書活動推進のためにも、是非、早期に中学生のニーズ調査を！
	→ 表記を検討します。
p. 13 第 2 章第 2	子ども読書プランの方の 13 ページを拝見して、中学校の生徒さんにアンケートを定期的実施していることを知りました。同資料 3 ページの指標 3 について、以前、東京都全体の不読率ではなく、三鷹の不読率の把握を目指した方がよいのではないか、という意見を申し述べましたが、既に実施し

	ているアンケートがあるのであれば、そこに質問項目を追加するのはどうかと考えました。(小学校の方は、また別に解決する必要がありますが)
	→ 今後アンケート実施の際に検討します。
p. 14 第2章第2	ウの記述では、「職場体験」が「読書への関心を喚起する良い機会」となるように読み取れますが、両者は結びつかないと感じます。補足説明が必要ではないでしょうか。
	→ 職場体験を図書館で行う意義を追記します。
p. 15 第2章第2	3 (1)、各学園、学園 とあります。前文を見返す限り、何を指すのかわかりませんでした。補足等が必要なように思われます。
	→ 表記方法について検討します。
全体	注記の用語説明は、基本的運営方針と同様に図書館情報学の辞典をもとに記した方がよいと思われます。レファレンス、ブックスタートなど。
	→ 注記で追加すると共に、用語辞典等の平準化した言葉を使用します。
全体	以前、協議会の中でも疑問を呈したことがあったのですが、土曜日の地域開放、私の知る限りでは利用者はほぼなしに等しいと思っています。それから多分2年弱の経過があるかと思っていますが、何か改善がなされているのでしょうか？ほぼ利用がない学校に関しての働きかけなどは行われているのでしょうか？学校図書館司書は、管轄外で取り扱いが難しいとお聞きした記憶がありますが、連携を掲げる限りは、活性化につなげたいものですよ？読み聞かせボランティアに関して、学校ごとに受け入れ場所をリスト化するという動きがあるのでしょうか？ 鷹南学園のSC推進員から、東台小学校にそんな依頼が来たのですが、突然のアンケートだったので困惑していました。読み聞かせボランティア講座に関しては、「連絡会」が動いていることなののでしょうか？
	→ 現状で課題はありますので、整理していく必要があると考えています。
全体	今年度、教育委員会CSとネットワーク大学の連携で、地域・保護者向けの読み聞かせ講座を実施する予定です。その観点で見直したところ、「市内諸機関(諸団体?)との連携」的なものはありません。強いて入るとすれば、2章ー3 関係施設・部署との連携 の箇所なのかと思いますが、現在の文章ですと、どの項目も既に決まっている連携先だけが記載されているので、それらとしか連携しないようにも読み取れたりしませんか。 多方面との連携の可能性をぼやかして、文頭にでも記載しておくのはどうでしょうか。
	→ 修正します。